



今回は、礼文島事後研修で行った実験考古学の報告です。

## ◇ 石器を作り、肉をさばき、骨を割る

日 時：平成29年1月29日(日) 9:00 ~ 15:00

場 所：関高校中庭、北舎別館教室

参 加：生徒10名(礼文島研究班、地域研究部、有志)

内 容：石器の製作、石器による肉解体、骨割り、骨加工、土器による煮沸実験

※ローストチキン用の丸鶏、トン骨用の骨を使用

日 程：

9:00~ 9:15 石器づくりのオリエンテーション(15分)

9:15~10:15 石器製作実験(60分) 下呂石・頁岩・黒曜石を用いて剥片を製作する。

10:15~10:30 実験・観察の方針について検討(15分)

10:30~11:30 石器・金属器使用実験(60分) 剥片石器を用いたトリ解体。  
剥片石器・叩き石・金属器を用いた骨加工実験。

11:30~12:30 土器による煮沸実験(60分)

12:30~14:00 石器・骨角器の使用・加工痕観察(60分)

14:00~15:00 まとめ(今後の方向性)



石器を使用した肉解体



石器で割った骨の剥片



骨割りに使用した楔形石器

## ◇ 礼文の縄文人・オホーツク人はどうやって骨を加工したのか ~実験で検証~

海に囲まれた礼文島では、トドやアシカなどの大型海獣類や飼育していたイヌ・ブタの骨を利用して様々な道具を作っていました。「硬い骨をどうやって割り、細かな細工をほどこしたのか」。そんな疑問を解決するため、石器を作って実際に骨を割ってみることにしました。

使用した石器は楔形石器(くさびがた石器)。試行錯誤の結果、ちゃんと割れることが判明。この実験の過程と結果は、次年度の日本考古学協会にて発表します。



海獣骨の出土状況



骨製の動物(クマ?)の顔

## ◇ 参加した生徒の感想

■ 狩った動物を石器で削っていたことや、骨を武器などにしていたことなど、知識として知っていたことが、実際にやってみることで本当にやっていたんだと分かりました。石器を作るためには、どのような角度でどの辺を叩けば薄く鋭く割れるのかということを考えてやっていたのだなと実感しました。薄く鋭い石器は肉を削ぐことだけでなく、矢じりの先端などにも使われていたと教科書にあり、実際に、作った石器はよく切れるものでした。石器があれば大抵の事はできそうだと思います。

縄文のころから、知恵と工夫を駆使して効率よく生活していたのだと感じました。その知恵や工夫が、今日の私たちの生活にも反映されているものがあり、それらが元となって現代の暮らしがあるのだからすごいことだと思います。

今回の実習では、教科書などでしか知らなかった知識が本当に行われていたことなのだと確認するいい機会となりました。本当に行われていたことなのだと分かったからこそ縄文人の凄さが分かります。知恵と工夫を駆使して生活していく。そのことを実感した実習でした。

■ 久々のフィールドワークとなりましたが、大変楽しく参加させていただきました。約一年ぶりの石器作り、石器による鶏の解体に加え、初めての豚骨の加工。机の上じゃ学べないことの一部を今日あの時間に学ぶことができたような気がします。

事前に今年の夏に礼文島で発掘された熊のモチーフについてお聞きしており、幾ばくかの事前知識をもっての骨の加工となりました。くさびを介し骨を割ることが出来たことは、技術として平成の世で活かされるかどうかは甚だ疑問であります。しかしくさびを用いて実際に割ることができ、遺物として現れたような削れ方をみせるということは、出土したものに確かな証拠を結びつけているのだと思います。そしてなにより、自らの手で執り行ったことは、黒曜石は切れ味がよいが如何せん強度が足りず骨を割るのには不向きだとか、頁岩より下呂石の方が上から叩かれる衝撃に耐えられるだとか、先生方がおっしゃったように論文を幾度読んででもわからないことを教えてくれました。また、熊の造形物についても自分のなかでの解釈を深められました。例えば大人の豚の丸い骨は試したところ非常に取りづらくそれなら若く最初から外れる骨を利用した方がいいのではないかということや、一度に大きく削り取ることができず細かな作業で時間がかかるがその分きれいな曲線が描けたことなどです。小さな発見でしたが私にとってそれは電子化された画像上では知り得ないことだったのです。

二年生になり日々の学習やスピーチ、SGHに追われフィールドワークに参加することもめっきり減ってしまいました。ですが、こうして実験、観察と発見の楽しさを味わうと、自らの五感を使い学ぶことがいかに重要でいかに面白いことかを再認識します。浅学非才の私の身からすれば石器を作るときに生まれる焦げたような匂いにすら感動を覚えるのです。

これからまた私はあくせくと日々を駆け抜けていくことになるのですが、今日触れた教科書にのっていない学びの尊さを忘れずにいきたいです。

■ 今回の実習を通して僕は礼文島での学びをさらに深めることができたと感じました。午前の石器づくりでは、どうすれば薄く鋭い石器ができるか試行錯誤を繰り返し、徐々に理想のかたちに近づくようになってきたり、午後の解体、骨割りの実験でも、同じようにいろいろなやり方で挑戦できました。礼文島では、僕たちは土の中から出てきたモノをみることにしかしていなかったのが、今回の実習で、それがどのように作られるのか、どのように使われるのかを、その当時の人々と同じ目線で活動してみることでそれが浮かび上がってきて、見るだけでは思いつかないようなことが発見できて、すごく楽しく、そして新鮮な体験ができたと感じました。特に、骨割りの実験で、いろいろな道具、方法で縦に割る方法を探していくのがとても印象に残り、また、当時の暮らしから現在の私たちの暮らしへと発展していったのが、今回の実習で改めて実感することもできてとても貴重な体験となりました。